オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(47)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(47)－

１．始めに

前報(46)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

EMI　2910901 M

モーツアルト　ピアノ協奏曲 15 番

SOLOMON（ピアノフォルテ）

Otto Acherman 指揮 Philharmonia Orchestra

モーツアルト　ピアノ協奏曲 15 番

Aruturo Benedetti Michelangeli（ピアノフォルテ）

Ettore Gracis 指揮

Orchestra Synfonica da Camera dell'Ente Pomerigggi Musicali

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

EMI 盤ということで、EMI、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

2 組のピアノフォルテの演奏によるピアノ協奏曲 15 番の演奏です。表記はピアノフォルテとなっていますが、古楽器のピアノフォルテでなく、通常のピアノの演奏のようです。

SOLOMON という演奏家は知りませんでしたので、検索してみたところ、

Solomon Cutner というイギリスのピアニストのようです。

https://www.forte-piano-pianissimo.com/Solomon-Cutner.html

この Solomon Cutner と Aruturo Benedetti Michelangeli の聴き比べ、オーケストラもイギリスとイタリアのオーケストラの聴き比べということになります。

Solomon Cutner の方は 1954 年録音のモノーラル録音、Aruturo Benedetti Michelangeli の方は 1968 年録音のステレオ録音ということで、盤にはイタリア語の His Master's Voice のラベルが貼られています。

Solomon Cutner の方は、録音が古くモノーラル録音ですので、レンジは狭いですが、凝縮したオーソドックスな演奏です。

Aruturo Benedetti Michelangeli の方は、EMI がイタリアで録音したもののようで、あまりよい録音状態ではありませんが、Michelangeli らしく華やかで切れ味のよい演奏です。

３．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、Solomon Cutner と Aruturo Benedetti Michelangeli という年代も録音も異なるものの聴き比べとなりましたが、両者の演奏スタイルの違いがよく分かりました。

以上